

	第 6 回女性まちづくり委員会
	平成 1 9 年 1 1 月 2 6 日 (月)
	午後 7 時 0 0 分 ~
	役場本庁舎第一会議室
1 . 開 会	
2 . 提言書の提出	
3 . 町長あいさつ	
	ただ今、皆様方が長い期間をかけてお考えいただいた提言書をいただきまして、誠にありがとうございました。
	先日、1 1 月 1 3 日に若者まちづくり委員会からも提言の報告をいただきました。私も石川町に参りまして 3 6 年ほど経ちましたが、直接的には、はじめてこれほど石川町の若い人達がしっかりしたものの考え方を持っているということについて聞きました。私は涙が出るほど嬉しかったことでした。それ以来、他に出向いたときには石川町の若い人達がしっかりしたものを考えているということをお話するようになりました。先日、私用で大阪に出向いた際に、以前に石川町を訪問していただいた会社の社長のところに、ごあいさつの電話をいたしました。何度か先方にお伺いしておりますが、今までは、石川町に進出した際には、石川町には働ける人が大勢いますよですとか、若い人達がたくさんいますから、是非、来て下さいという話をしてきました。しかし、今回は違いました。若者まちづくり委員会が町に対して提言をしてくれた内容をお話する事が出来ました。先方もこの提言に対して、大変興味を持っていたいたので、若者まちづくり委員会の提言書を持参いたしまして、説明をしながら、お話をさせていただきました。
	私が町長になってからというよりも、石川町に住むようになって 3 0 数年の中で、これほど感銘を受けたことはありませんでした。このことを先方の社長にお話をして、社長には絶対に迷惑を掛けないので石川町に進出して欲しいという話をして参りました。若者たちの提言は、私にこのような自信を与えてくれました。先方に訴える内容や方針が根本的に一変しました。これだけの若い人達が本気になってくれているということが本当に私に勇気を与えてくれました。とかく要求書や要望書などが大変多く私の元にも届く現状ではありますが、そうではなくて、若者まちづくり委員会での提言は、自分たちの町を自分たちでつくるという提言だったのです。これこそが本当に財産とも言うべき石川町の「人」という部分であると考えます。この間は、先方の社長にもこの話をしまして、町外に働きに出ている人数などと併せて、4 0 0 人規模の会社として進出していただいても充分な可能性を持っているというお話をさせていただきました。皆様方のしっかりした提言が大切になってきます。補助を求める要望書などの従来の提言の手法、要求の手法であったと思いますが、若者の皆さんの提出してくれた提言書というのは、これからの町政に対しても力強く自信を持つ確信につながっています。
	このように、この間の若者たちの提言は、私にとって、基本的なものの考え方を変えてくれました。この間も、ある会合にお邪魔した際にも、提言のお話をさせていただきました。それだけ、しっかりしたものの考え方を若い人たちが持っているということが、町

	の再生のきっかけになるのだということを胸に刻みました。
	今日、女性まちづくり委員会の皆様方が提言していただきました内容も大変素晴らし
	いものだと思いました。提言書という形として素晴らしいだけでなく、普段、私が思っ
	ているようなことのひとつである人と人との関係について、皆様の提言が非常に参考になる
	ものと思いました。これからの策定される総合計画に織り込まなければならないものであ
	ると思います。このことによって、町民の皆さんひとり一人に対してPRになるものと思
	います。このようなことが、将来の石川町に役にたってくるものと思います。
	具体的には桜のテーマなどがありましたが、桜に関しましては役場の課長会でも勉強
	会を開きました。この所の町民の皆さんの桜に対する関心が非常に高まっていることの現
	れであると思います。町民の皆さんが盛り上がり、役場の職員も一生懸命にやるというこ
	とで、町が一体になった取り組みにつながっていくものだろうと思います。
	八槻市でも10数名の役場職員が祭りを成功させようということでボランティアと
	して参加しているところです。このように町民の皆さんが一体になって進めば、皆さんの
	提言の実現もそんなにむずかしいことでは無いと考えます。ひとり一人が自ら率先して動
	くことによって実現されるものだと思うのです。
	また、提言にもありましたが、町を訪れたお客様にぬくもりを与えるということ、ち
	ょっとした気遣いをしてあげること、声を掛けて案内をしてあげたり、関心を示してあげ
	るだけで、石川町はほかの町と違うなというところを気付かせてあげることが出来るので
	はないでしょうか。皆さんがお示しの「五感」のひとつに繋がってくるのではないでしょ
	うか。これはちょっとした気遣いですが、非常に大切なことだろうと思っています。決定
	したことではありませんが、来年はさくらの時期にバスによる回遊を考えています。色々
	な批判が出るかもしれませんが、やってみて批判を受けたほうがいいのではないかとと思っ
	ています。
	石川町第5次総合計画には、皆さんの提言を参考資料としてそのまま掲載したいと思
	っています。皆さんが一生懸命考えて、また、議論をいただきましたことに際しましては、
	心から感謝を申し上げます。
4．懇 談	
座長 瀬谷課長	自己紹介と感想をお話していただきたいと思います。
小林委員	委員会でも観光などの色々な話をしましたが、石川町をもっとPRしてお客さんをもっ
	と呼びたいと思いました。それから先日の八槻市で感じたのは公衆のトイレがたくさんあ
	ったらいいのになと思いました。
竹島委員	先ほど町長さんもおっしゃいましたが、なんでも無理だと思わないで、やれば出来るん
	だという前向きな気持ちを持って、何でもやってみないといけないなと思いました。
関根委員	商工会の女性部では環境問題に取り組んでいて、EM発酵液を作って町をきれいにした
	いと思っています。
中村委員	石川町商工会女性部では「トイレをどうぞ」というシールを作って、会員の了解の下、事

	務所や店舗に貼って、快くトイレを貸しましょうということを行なっています。
瀬谷委員	一人暮らしの人が増えていますので、みんなで見守っていただければ良いなと思っています。
	ます。
金内委員	石川町に嫁に来て、今まであまり不満を感じたことや住みにくいと思ったことはありませんでした。今まで、色々な面で行政任せでしたが、この委員会に参加させていただいて、自分に何が出来るのかということを考える機会を与えていただいて本当に良かったと思っています。また、委員会では委員の皆さんの色々な意見を聴くことが出来てよかったと思います。是非、役場ではこのような意見を活かしていただきたいと思います。
深谷委員	女性の立場で身近なことを話し合って、環境や人口の問題を話しあいました。環境ではゴミの問題が一番多く出た内容だったと思います。ゴミをどのようにして減らすかということで色々皆さんから意見が出ました。気楽に話が出来ましたし、自分の勉強にもなりました。
二瓶委員	食改のアピールの場所が足りないと感じています。先日の八槻市でもひつつみ汁を提供したが、このような場を活用してもっと食改をアピールしていきたいと思っています。地産地消で材料などを作って、周囲からお客さんがたくさん来て、町が豊かになるまちづくりにしたいと思っています。
	今回、女性まちづくり委員会に参加させていただいて本当に勉強になりました。
角田委員	主に委員会の中では記録やまとめを担当しました。委員会を通して、皆さんのお話を聞きながら、ほかの町村のことについて情報のアンテナがとても高いと感じました。この提言書をもとに可能性が広がっていくだろうと思いました。
小池委員	委員会を通して、何とか健康に結び付けたいと思っていました。女性の視点というのは、生活に近いものが多いと思います。このような視点から提言をまとめる方向に進んだら良いなというように考えて進めてきました。
	補助金をたくさん出して欲しいとかの要求的な意見や考え方から、話し合いを進めるうちに皆さんの考え方が変わってきて、自分たちでやろうという方向で提言書が出来ました。
	今回、参加していただいた委員の皆さんは、これから総合計画が出来て、計画を実行するという段階になったときには先頭にたって実践する人たちだと思います。提言書を提出しましたが、これで終わりではないので、皆さんと一緒にまちづくりを進めていきたいと思っています。
副町長	提言をありがとうございます。
	先程の町長のあいさつの話しの半分は、「副町長。しっかりやれ。」ということだろうと思っています。
	昨今のぎすぎすした世の中であって「こころに花を～五感で味わう石川町～」という女性まちづくり委員会の基本コンセプトは非常に心が和むものになっています。一方的な提

	言ではなく、皆さんのまちづくりに思い、熱意というものが伝わってくる内容になってい
	たと感じています。これからまちづくりを実践していく段階では、皆さんの意識が伴わな
	いと良い結果にはつながってこないものだろうと思います。
	町内には「ものづくり」の達人という方が必ずいると思います。このような名人、達人
	の作ったものを商品として販売できるようなシステムをまちづくりの中で考えていかなく
	てはいけないと思っています。皆さんの長い人生経験を生かすということと、仕組みを維
	持するための最低限の資金と楽しみになるようにささやかでも利益が出るような仕組みの
	実現のための町の体制も考えなくてはならないと思っています。
	このようなことを実現するためには多くの町民の皆さんが参加するということと、でき
	るものから取り組んでいくということが大切ではないでしょうか。
	若者まちづくり委員会でも「めんごいいしかわ」ということが基本コンセプトとして提
	言されましたが、この「めんごいいしかわ」と今回の「五感で味わう石川町」ということ
	を結びつけていければ、良いまちづくりが出来るのではないかと感じさせられました。
	桜の香りなど18項目の香りを挙げていただきましたが、このようなこれまでと違った
	視点にたってものごとを見ることが出来ればよいものが出来上がるものだろうと思いまし
	た。
	また、先程皆さんからトイレのお話も出ましたが、さくらまつりには間に合いませんが
	南町の水道事業所のところにトイレを作る計画があります。商工会女性部の皆さんの「ト
	イレをどうぞ」の取り組みと一緒になれば大変便利になるのではないのでしょうか。
関根委員	新しくトイレを作ったら、EM発酵液をつかって臭いを消すことを是非、実行したいと
	思っています。
町長	今、町の職員もオープンになってきました。私のオープンというのは本音で話をして、
	本音で話を聞くということです。言葉の端を取ったりするのではなく前向きに話をしあい
	ましようということなのだろうと思います。
	それから特産品ということですが、何も原産地が地元でなくても特産品は出来ると思う
	んです。原料を加工したもので銘品になっているものは少なくありません。産地が一番重
	要ということではないはずで。その地方でつくり続けてこられたものがその土地の名産
	になるのだと思います。
	今の社会的な位置付けでは商品の包装が大変重要になってきています。遠くから来られ
	た方々が買っていかれるのは少量でも手ごろな値段の商品ではないかと思うんです。
	ちょっとした思い付きが大事だと思います。新しいものづくりや今までにないアイディ
	アや工夫は人のつながりから商品がうまれることが少なくありません。今までの習慣を
	変えていくのというのもアイディア次第だろうと思っています。
関根委員	夢つくりいしかわという会社に関わっているのですが、皆さんの発想が欲しいのです。
	先程、食改の方から活動の場所がほしいということなので、食べ物をつくって提供する場
	所を協力できないかという話を会社に行してみます。
二瓶委員	食改の活動の場ということですが。伝達料理実習ということで、各地区10数箇所で行

	なっています。これまでは食改の皆さんが一堂に会して各地区に伝達するための実習を中央公民館で行なっていました。１１月から調理室が図書室になってしまったので、実習の場所がなくなってしまいました。代替りの施設として、勤労者青少年ホームや中谷農村婦人の家などがありますが、勤青ホームは機材が揃っていませんし、場所も狭いという現状で、食改も大変悩んでいます。中谷の婦人の家は機材も色々揃っていますし、いいところだと思います。食改の中でもＰＲが足りないのではという声も聴かれています。活動の場所が狭められてしまうのでは、私たちは何もできなくなってしまいます。食改の活動する施設の提供をお願いします。
関根委員	夢づくりという会社で、活動の場所を提供できないか交渉してみます。なにか商品になるようなものがあれば交渉しやすいと思います。お菓子とかクッキーとか・・・
瀬谷座長	中谷の婦人の家では機材的には間に合うのでしょうか。
二瓶委員	中谷の婦人の家だとまあまあだと思います。大きい鍋やコンロもありますから。それよりもオープンが欲しいんです。
瀬谷座長	食改さんが実習で集まるのには中谷は駐車場も広いので良いでしょうね。
二瓶委員	駐車場は広いので、その点はいいと思います。
	この間、曲木の集会所に伝達料理実習に行ったのですが、曲木では（行政区で設置した）素晴らしいオープンとフード付きの業務用のコンロがありました。
	野木沢公民館の館長にもお願いしたのですが、オープンがとても便利でした。
深谷委員	要望です。石川小学校の前の橋なのですが、木造の橋を造っていいいただきたいのです。災害時には、避難場所に町民グラウンドや小学校が近くなります。
	人がとおるだけの狭い橋で良いですから木の橋を作ってください。
竹島委員	役場の仕事がかかっていると意見を遠慮してしまうので、委員としてはお役に立てなかったかも知れませんが、いろいろな大変さがわかってくると要望とかの話はしにくかったところです。
副町長	まちづくりの考えというのは、従来であれば皆さんの要望を受けて役場が箱を作ったか、町が何かを作ったというのが多かったのですが、様々な自治体が失敗しているのはこういう手法によるところが大きいと思います。私たちがまちづくりの参考にするために足を運んでいるまちというのは、あせらず急がず、２０年くらいの時間をかけてじっくりと地域の考え方や、地域ごとに集まって皆さんが、この地域で何かをやろうという気運から始まっています。一朝一夕に出来上がっているものではありません。石川町でも送れてスタートを切るわけですが、自分たちが一緒に関わっていけることを何か地域を見直していくということだと思います。石尊山にイルミネーションが点燈したときも、なんともいえぬ感動を覚えました。このような身近なところにまちづくりというのは存在しているの

	ではないでしょうか。何かとっかりをつくって地域ができるようなまちづくりを目指して
	今年からスタートを切ったというのが、これからの石川町ということになると思います。
	ちいさな単位で考えていけば、皆さんが住んでよかったというまちづくりにしていきたい。
	今回も第５次総合計画に向けて、皆さんの提言をいただきましたが、つくっただけの立
	派な計画よりも皆さんがやれる計画が出来上がれば良いなと思っています。
竹島委員	先程のトイレの件でも、夫がなくなる前から、２０年くらいになるかもしれませんが、
	きれいなトイレを作ってあげたいといっていました。そういうことがやっと来年に実現
	するわけですね。こういうことを考えても一つのことが実現するということは大変なこ
	とですね。
瀬谷座長	商工会でも協力してくれるとか、色々な協力があって力になって実現していくのではな
	いでしょうか。
小池委員	常に私の頭の中は、元気な老人を元気なまま、元気で一生を終えるというのが理想だと
	思います。
町長	高齢者のお小遣いが稼げるものがよいですね。それには石川町のワッペンなどを貼って
	商品らしくするということが必要ではないでしょうか。こうすることによってお土産らし
	くなると思います。お金が少しでも稼げれば楽しみになると思うんですよ。シールやワッ
	ペンが貼ってあれば、これがお土産になるんです。商工会でもどうですか。
関根委員	石川町の名前が入ったものですね。値段は少し高いですけども焼酎は結構売れていま
	す。今は在庫が無くなっています。
町長	あんまり難しく考えないで、みんなでやれば何とかできますよ。
金内委員	私はよさこい踊りをやっているのですが、先日の八槻市でも県内から２０くらいのチー
	ムが参加していただいたのですが、毎年、参加してくれています。それぞれが２０人くら
	いの団体も多く、子供さんが参加していれば、その親御さんも一緒に石川町を訪れてくれ
	ています。来てくださる方々は八槻市でも何かしらの買い物をしてきています。
	先程、お話がありましたが、来てくださる団体には石川町のお店では「トイレをどうぞ」
	というシールがありますよということをお話してあるのですが、はじめてきた人には少々
	わかりにくいようですので、もう少しわかりやすいところに貼っていただくか、大きな形
	状で目立つようにしていただければ大変ありがたいと思っています。取っ掛かりとして、
	お店に入ってもらえれば商品を眺めてもらえる機会が生まれると思います。
	また、たくさんの方が来られるので駐車場の確保がされていけば良いなと思います。ま
	た、さくらの季節にも素晴らしい桜の下でよさこいを躍らせてあげたいと思っているので、
	呼んでください。クリスタルパークの石の舞台でもいいのでよろしく願います。
二瓶委員	商工会でも、シールが貼ってある場所のトイレマップを作ってはいかがでしょうか。喜

[illegible]